

形態認識に起因する読み書き困難者のための 線分方向マッチング装置

前原吾朗 (神奈川県 人間科学部)

1. 背景 Background

読み書き困難の原因に関する理論

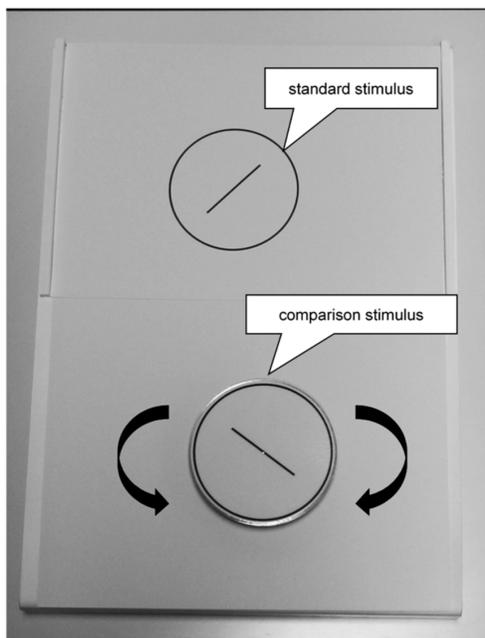
- 1) 音韻処理の障害: 字を音に変換するのが困難
- 2) 視覚処理の障害: 形態認識、眼球運動が苦手
- 3) ワーキングメモリーの障害: 文字情報を一時的に保持するのが困難

2. 利点 Advantage

本装置を用いることで、十代以後の個人における読み書き困難の原因が形態認識にあるかどうかを探ることができる。



3. 技術 Solution



標準刺激
(見本)

比較刺激
(回転する円盤)

比較刺激を回転させて線分の傾きが標準刺激と同じになるように調節する。

形態認識が苦手な場合、標準刺激が水平・垂直から少しずれた斜め線のとときにズレが大きくなる。

4. 用途 Application

- ・ 発達障害の支援施設や小児眼科医院などにおける検査
- ・ 読み書き困難者における形態認識の訓練(今後の課題)